

牧 師 所 感 ： 年を取っても少し無理して生きる

冒頭のテーマの言葉は、カトリック教徒の作家 曾野 綾子氏の言葉である。

ところで、現実には上の言葉通り 少し無理して生きる筆者には、大きな慰めの言葉となる。というのは、ヨタヨタ歩くことにならない為に 少し無理して 運動する。又 聖書を読んで霊力（聖霊の力）を受けるのが基本だが、それに付随して 知識を得るために小説、エッセイ、学術書を読んで夜更かしをすること等が、無理することである。また 無理して本を読み通して 早朝まで読了する時がたまにある。もう若いんだから 早く寝ることよと、叱られっぱなし。

だが 曾野先生は言う。少し無理をして生きると。その持論を紹介する。

年をとっても少し無理をして生きる（93 歳。90 歳、こんなに長生きするなんて。）

「年をとれば、どうしても誰かに頼らざるをえないことが出てきます。なんでも、自分一人で生きられる、というのは傲慢です。そこで難しいのが、自立と頼ることのバランスだと思うんです。

老人といえども他人に依存せず、自分の才覚で自立すべきだ、というのが私の考えですが、私は、人間はみんな少し無理をして生きるものだと思います。年をとった、身体の調子が悪くなったからといって、何でもやってもらおうというのは、おかしい。

お金を稼がないと生きていけない現実もある。大きな荷物を背負った行商のお婆さんは、もう昔の光景ですけどね。やっぱり生活があるから、腰が痛くてもやっていたんです。その程度のことは、人間がやって当たり前でしょう。

みんな少し無理をするべきなんですよ。つらい思いをして、みんな生きているんですから。年をとっても、それは同じだということを 知っておいたほうがいい。」

もうひと方 先輩 瀬戸内 寂聴 和尚様のことば（96 歳の時。寂聴 残された日々）

「生きるということは、その存在が 誰かの役に立っていることではないだろうか。夫婦の、恋人の、家族の、よりどころになっているという自覚がある時、人は自分の命の重さをひしひし実感することができる。」

筆者が少し無理するのは、牧師として 年を取っていても（92）現役で働いているからである。自分で働いて 自分を養う為である。しからば そのうちに召される日がくるであろう。その時までには 頑張るつもりである。

神に栄光あれ！！